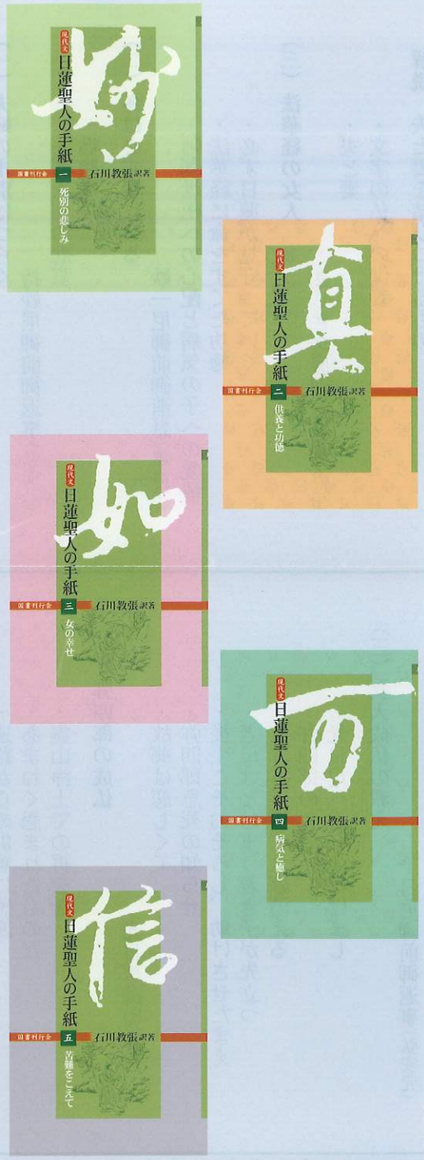
南条七郎五郎殿が死去されたこと、人は生まれて死ぬことは世の習いである、とは賢い者も愚かな者も、上下同一に知っていることで、いまさらはじめて嘆いたり、驚いたりすることはない、ということは自分も知り、人にも教えてきたことであるが、いよいよその時にあたってみると、夢か幻のように思われ、いまだ世の常であることを分別できなく思うのである。

2　同悲と救済の心

まして、母親であるあなたには、どんなにかお嘆きのことであろう。すでに、父母にも兄弟にも先立たれ、最愛の夫にも別れられたが、子供たちは多くいたので、それがせめてもの心の慰めであったろうと思っていたのに、（七郎五郎殿は）可愛くしかも男の子で、顔

死去　七郎五郎の死は弘安三年（一二八〇）九月五日、享年十六歳。駿河上野郷と身延との距離は、一日で往復可能であった。死去の急報を聞き、日蓮聖人は翌六日に真情あふれる弔意の手紙を一気に綴った。

最愛の夫　南条兵衛七郎。執権北条時頼の近臣。文永二年（一二六五）病没。このとき七郎五郎は母の体内にいた。



▲第１集『死別の悲しみ』（二）四十九日忌の手紙――上野殿母尼御前御返事　＜組見本100％＞

■判型　四六判（188×128mm）
■頁数　各冊160頁
■造本　カバー装・並製
■定価　各冊1,680円（本体価格1,600円）

◆本書の特長

- 日蓮聖人の手紙はこまやかな慈愛にあふれ、読む人を癒し、心の悩みを救い、勇気づけてくれる。
- 日蓮聖人のご遺文35通を選び、５つのテーマに分類し、巻末に解説を付す。
- 読みにくい字にはルビをふり、必要に応じて新たに脚注を付す。
- 平易で読みやすい現代文で新編集。

〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15 国書刊行会 Tel 03 (5970) 7421 Fax 03 (5970) 7427
URL:http://www.kokusho.co.jp E-mail:info@kokusho.co.jp

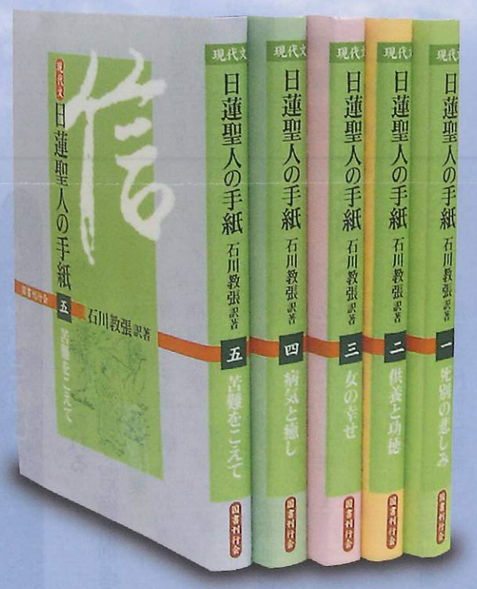
石川教張 編著

新編 現代文

日蓮聖人の手紙

全五冊

日蓮聖人の手紙は
読む人を癒し、救い、
勇気づけてくれます
大きな活字で
すらすら読みやすく
わかりやすい現代文で新編集！



現代文 日蓮聖人の手紙 全五冊 目次

1 死別の悲しみ

Ⅰ 子どもに先立たれた母のために

(一) 七郎五郎の急死にこたえて　上野殿後家尼御前御書(弘安三)
・夢か幻か
・同悲と救済の心

(二) 四十九日忌の手紙　上野殿母尼御前御返事(弘安三)
・供養と廻向
・法華経は最上の教え
・法華経は大塔、一切経は足代
・亡き子の成仏
・法華経の行者への守護

(三) 亡き子との再会を導く　上野尼御前御返事(弘安四)
・子は敵、子は財
・母の一念

(四) 成仏まちがいなし　上野尼御前御返事(弘安四)
・蓮華と成仏
・法華経書写の功徳
・法華経の信心と成仏

(五) 母の嘆きを伝える約束　上野殿母御前御返事(弘安四)
・年もとり、病気も重い
・無常と同悲の心

解説　母の悲哀と日蓮聖人の約束
《石川教張のことば》
・生死夢幻(幼児の死)
・つぼみの花
・シャボン玉の歌
・心すなおにして
・法華経の種
・お題目のすすめ
・同悲の心

Ⅱ 夫に先立たれた妻のために

(一) 夫婦の永別はつらく　持妙尼御前御返事(弘安二)
・夫婦永別の悲哀
・唱題廻向

(二) 冬は必ず春になる　妙一尼御前御消息(建治元)
・阿闍世王への心配と病気の子への愛情
・法華経に命をすてた功徳
・必ず日蓮が見守っていく

(三) 法華経の女人　さじき女房御返事(建治元)
・夫と妻
・文字の仏への供養

解説　夫と妻を結びつけるもの
《石川教張のことば》
・功徳
・羽と身(夫と妻)
・妙法蓮華経を持ちつづける誓願
・蘇武の苦難と望郷
・相思樹

2 供養と功徳

Ⅰ 法華経の行者への供養と功徳

(一) わが足は父母の足　亡持経事(建治元)
・母親の死を嘆く
・身延山中に法華経ひびく
・あまりの嬉しさに

(二) 追善供養のまこと　上野殿御返事(文永一一)
・上野兵衛七郎の思い出
・亡き上野殿への廻向

(三) 供養の継続　南条殿御返事(建治二)
・親の志と子供
・法華経の功徳
・孝養の心

(四) 感謝をこめて　上野殿御返事(弘安二)
・困難のなかで
・出藍のほまれ

(五) 法華経を糧として　千日尼御返事(弘安三)
・方便品の教え
・釈尊・多宝仏と対面する阿仏房
・男は羽・女は身
・子は敵、子は財

解説　供養の継承
《石川教張のことば》
・父母の頭
・恩徳
・供養と功徳

Ⅱ 法華経の智者・行者

(一) 法華経の智者　智慧亡国御書(建治元)
・末代悪世の大悪
・法華経の智者
・大悪こそ大善の瑞相

(二) 供養の志　事理供養御書(建治二)
・衣と食の二つの財
・衣を法華経にささげる真の意味
・月こそ心、花こそ心

(三) 法華経の行者として　松野殿御返事(建治四)
・社会の惨状と命の無常さ
・受難と法華経の行者の確信

解説　智者から行者へ

3 女の幸せ

(一) 感謝をこめて　国府尼御前御書(建治元)
・遠路からの供養に感謝
・あまねく怨まれたものだ
・霊山浄土での再会を

(二) 弥四郎の成仏　光日房御書(建治二)
・故郷は恋しくて
・弥四郎急死の知らせ
・後生こそおそろし、助けさせたまえ
・老母はとどまり若き子が先立つ
・大罪も懺悔すれば消える
・弥四郎の救い
・光日尼へ信心のはげまし

(三) 女人成仏の教え　千日尼御前御返事(弘安元)
・真実の経文
・女人成仏の手本
・まことの報恩経
・女人を助ける誓願
・十万億の仏を供養した女人
・どんなことがあっても覚えている

(四) 妙の一字の功徳　日妙聖人御書(文永九)
・身を捨て仏法を求めた楽法梵志
・妙の一字にそなわる釈尊のすべての功徳
・幼子をつれて波濤をこえた正直な女人
・日妙聊人と名づける

(五) 母への供養　刑部左衛門尉女房御返事(弘安二)
・母の恩
・目連尊者の天眼
・法華経の孝養

解説　法華経の女人と女の幸せ
《石川教張のことば》
・供養の志
・心の中の蓮華
・経後回向
・法華経の女人
・女性の救い

4 病気と癒し

(一) 病の人ほど仏になれる　妙心尼御前御返事(弘安元)
・法華経は不死の良薬
・謗法こそ重い病気
・病気と道心

(二) 法華経の正しさを証明　法華証明抄(弘安五)
・法華経は真実なり
・法華経の信心の難しさ
・七郎次郎の固い信心

(三) 定業を転じて延命を　可延定業御書(文永一二)
・法華経修行と延命
・寿命と祈り

(四) 妻の力　富木尼御前御書(建治二)
・病気回復へのはげまし
・歎きの共有と女人成仏のすすめ

(五) いのちは鶴亀のごとく　富城殿女房尼前御書(弘安三)
・法華経への祈り

(六) 苦しみにつけ、楽しみにつけ　四条金吾殿御返事(建治二)
・苦をば苦とさとる

(七) 日蓮にまかせなさい　太田左衛門尉御返事(弘安元)
・病気と厄年
・方便品と寿量品の書写
・法華経による除災

(八) 厄よけの釈迦仏像　日眼女釈迦仏供養事(弘安二)
・釈迦仏造立の功徳
・女人成仏の法華経
・仏になるのは疑いない

(九) 薄氷をふむ思い　新尼御前御返事(文永一二)
・身延の情景
・ご本尊をください
・領家の尼への願い

(一〇) 故郷への思い　清澄寺大衆中(建治二)
・法華経の正義
・清澄開教と受難
・蒙古襲来の危機を直視して

解説　法華経こそ最良の薬

5 苦難をこえて

(一) 報ずべき四つの恩　四恩抄(弘長二)
・大いなる悦び
・法華経ゆえの流罪
・流罪に感謝
・四恩とは
・大いなる歎き

(二) 報恩と師への諫め　善無畏三蔵抄(文永七)
・法華経こそ最勝
・真言宗への批判
・浄土宗への批判
・禅宗への批判
・娑婆世界の主・師・親である釈尊
・教主釈尊を二の次にする人々
・善無畏三蔵の死
・立教開宗と師恩報酬の誓い
・師との対面
・強言こそ人を助ける実語

(三) 法華経身読の悦び　佐渡御勘気抄(文永八)
・身命を捨てる覚悟
・石を金に変えたもの

(四) 法華経進呈の約束　一谷入道御書(建治元)
・流罪の覚悟
・報恩と仏道
・釈迦仏の恩
・謗法と蒙古襲来

解説　法難と報恩